

昭和40年度 和歌山県文化賞

きた やま けい た
北 山 谿 太

住 所：和歌山県有田郡金屋町

出 身 地：和歌山県有田郡金屋町

生 年：明治17年

■ 職業

国文学研究家

◎業績及び経歴

明治38年和歌山県師範学校を卒業、後に文検合格。小学校教育に16ケ年、中等女子教育に11ケ年貢献、その後鳥屋城村長を3ケ年つとめ、教育と地方自治における功績は大きい。

氏は30才の頃から国文学わけても源氏物語の研究に着手し爾来50年この途一すじに没頭しこの間「源氏物語の新研究」「源氏物語の語法」「源氏物語のことばと語法」「源氏物語辞典」「源氏物語の新解釈」など数多くの源氏物語研究書を世に出し、とくに語法解釈の研究は学界でも高く評価されており、「源氏物語辞典」は学問上画期的な傑作といわれるほどの力作である。

さらに数年前から80才の高令をおして紫式部日記と取り組み昭和39年11月脱稿、同41年2月「紫式部日記新講」として出版の準備を完了した。

しかしおしくも出版のよろこびを味わうことなく81才の生涯を終わった。

まことに翁の一生は大願に向って一日として倦むことなく研究と著述の仕事に終始し、臨終の一瞬まで筆をおかず不遇僻遠の地にあって困難な諸条件を克服しつつに中央学界にまで認められるに至った稀有の存在であり後輩の鏡とすべきものである。

(県文化賞決定後の昭和41年死去)